

# 地域とともに学校を創る



## ～気高地域学校統合準備委員会だより～

第2回気高地域学校統合準備委員会を開催しました

### 広報誌の発行について

ゴールデンウィーク明けの5月10日、17名の委員さんの参加のもと、第2回気高地域学校統合準備委員会が開催されました。まずは、この広報誌の名称を挙手により決定し、地域の皆さんに議論の様子を毎回お伝えしていくことにします。その名称は「地域とともに学校を創る」としました。

昨今、人間関係の希薄化や少子化、家庭教育の充実が課題となっている中で、学校や子どもたちが抱える課題は複雑化しており、みんなで取り組んでいく動きが求められています。さらに、学校を核とした協働の取組をとおして子どもたちの人格形成はもとより、地域や世界の未来を担う人材を育てる学校づくりが求められています。



気高の子どもを気高の住民みんなで育てるといった思いを込めてこの広報誌の名称を決定しました。

### 参考：鹿野学園のブロックの区分

### いよいよ議論が始まります

統合後の学校の設置場所について考えるためには、まず、どんな形態の学校(学校種)をつくるのかを議論する必要があります。鳥取市校区審議会の答申では「4校を新設統合する」「小中一貫型の学校についても選択肢として考える」という文言があり



ます。そこで、今回は、小中一貫型の学校とはどのようなものか、事務局より説明がありました。一部を紹介します。上の図は平成30年4月に開校した鹿野学園の仕組みを表したものです。鹿野学園は小中一貫型の学校のなかでも、小中が完全に1つの学校となり9年制の仕組みをとる「義務教育学校」という形態です。義務教育9年間を見通した教育ができることや小学校高学年から教科担任制をとり、専門的な学びができるなどの利点があります。

気高地域でこの学校種を選択すれば、中学校の生徒数減少の課題が一部解消されるほか、地域の特色を生かした独自教科が設定できるなどのメリット(利点)

があります。ただし、学校用地が限定される可能性もあるため、慎重な議論が必要です。

議論の内容を紹介します ～第2回気高地域学校統合準備委員会の議論より～

◆学校種（学校の形態）について

小中一貫校にした場合の具体的な教育的成果はあがっているのか。具体的な話が聞いてみたいです。



小中一貫にしても義務教育学校にしても、9年間同じメンバーで過ごすことは気になりますね。ただ、たしかに小学校卒業、中学入学という段差がなくなるのはいいですね。

◆学校の場所について

学校の位置によってはスクールバスを導入することも考えてほしいですね。



でも、徒歩や自転車で通わなくなってしまうと、地域で子どもの声が聞こえなくなり寂しくなりますね。なるべく大多数が徒歩で歩けるところがいいんじゃないでしょうか。

ともだちたくさん、楽しいね

～気高中学校区4小学校連携交流事業～

気高町内4つの小学校の統合は決まり、新しい学校はどんな学校になるのか期待に胸が膨らみますが、子どもや保護者に不安が全くないわけではありません。子どもたちが新しい環境に適應できるのか、統合までの期間、小規模化している学校に対する手立てが必要ではないかといったことです。そこで、以前より各地域の検討組織からは市教育委員会に対して交流に必要な予算措置を要望していました。

今回第1回目として、6月3日に逢坂小学校の児童9名が瑞穂小学校へ出かけ、田植えと芋の苗植えを行いました。子どもたちは、瑞穂地区のふれあい農園の会の皆さんの指導のもと、泥だらけになりながらも力を合わせて取り組んでいました。



交流の様子は各校のホームページでもご覧いただけます。子どもたちが安心して学校へ通えるようこれからも見守っていききたいと思います。



◀YouTube  
チャンネルは  
こちらから

発行：気高地域学校統合準備委員会  
事務局：鳥取市教育委員会事務局校区審議室  
TEL : (0857) 30 - 8405  
E-mail : kokushingi@city.tottori.lg.jp